

★檀家さんに聞く



お話を伺った社長の
北添幸道さん。



画像の中の赤丸で囲んだ部分が、北添製材が納入されたケヤキ。舞台の下で、古材と接合されています。

日高村岩目地にある北添製材。この製材所の前を毎日通勤される檀家様も多いことでしょう。

しかし、この北添製材で加工された木材が世界遺産の修復に使用されていることは、まだまだ地元の人にも知られていません。

普段、我々が当たり前、その前を通っている地元企業の北添製材。素通りするだけでは気づかなかった意外な事実や驚きは、少しの勇気を出して、お話を伺うことで得られました。

☑️ ちょうど一昨年亡くなられたお父様から数えて、幸道(こうどう)さんで2代目になられますか？

❶ そう、この製材所は親父が始めたがやけど、昔は電化製品を梱包する枠材を主に作りよったがよ。当時の早川電機、今のシャープの下請けでね。

そしたら、向こうは製品が新しくなるたびに寸法を変えてくるのよ一方的にね。自分はまだ20代前半やったけど、いつまでも振り回されよったらいかんと思うて、たいてい親父とも喧嘩したけど、建築材のほうに転換したがよ。お陰様で、今は多くの社寺仏閣の修復と建て替えに関わらせてもらいゆう。

☑️ 北添製材は特殊な材を扱うということは以前から聞いていたが、やはりケヤキが多いですか？

❶ 昔は確かにケヤキでだいぶ潤うた。(笑) けど、今は社寺仏閣シャジブツカクしか需要がないきねえ。個人の家でケヤキを使う人も、もうほとんどおらんかった。

文化財の修復もたいていやらしてもろうたけど、文化財は決まりがあって、まだ使える材はそのまま使わないかんがよ。やき、分解して詳しく材を調べたら、最初の見積もりと全然違ってきて、うちが原木を挽いて納入を待ちよっても結局そんなに使わんで修復が終わるっていうこともあるきね。(笑)



☑️ やっぱり、大きな材になると何年も乾燥させて寝かしちよかないかんがでしょ？

❶ いや、それが一概にそうでもないねえ。
それこそ以前、出雲大社のでっかい破風板フイタの修復があったのよ。石川県の工務店が請け負って、うちも材を納入することになって、ここへ取りに来てくれたのよ。ところが、うちは事前に原木を挽いてちゃんと構えちよったのに、たまたま傍らにあった丸太を見て、「いや、この木のヒガミが良いわ！こっちを挽いてくれ！」なんて言われて。もうその日は4時回っちよたき、先方には近くで泊まってもらって、明るる日に急いで挽いたなんてこともある。(笑)

それとか、こないだ松山のあるお寺に入った確かこれも破風板にする材やったと思うけど、それは12mあったのを生木で取っていったで。(笑)

☑️ よく大きなトラックが出入りされていますが、修復や建築の現場まで材を届けることもあるんですか？

❶ 稀に、修復のお寺さんまで直接届けたこともあるけど、大概是工務店が取りに来たり、こっちが中間地点の市場まで運んだり、だからここで加工した材が最終的にどこに使われちゆうか全部は把握できてないがよ。

修復が終わってから、その関係者の人が写真を送ってくれたり、感謝状を頂いたりして教えてもらうこともあるし。

それこそ、そこに飾っちゆうのが京都の清水寺の舞台の修復の写真やけど、舞台の人が乗る板を支える材を納入させてもらった。全部ケヤキ。遠目に見たら小さいけど、太さが75cmやきでっかいで！

～今までの主な納入先～
観光の際には是非思い出してください
伊勢神宮の高欄
箱根の関所の京都側
23番薬王寺の仁王門
85番八栗寺の本堂
須崎の大善寺の鐘楼堂